平成２９年度
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
推　薦　要　領

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会では、毎年、継続的な活動を通じて廃棄物等の 3R に取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施しております。

このたび平成 29 年度の募集を開始いたしましたので、多数ご推薦くださいますようお願い申し上げます。

＜対象となる取組＞
- 自らが 3R を実践する活動であり他の模範となる取組
- 3R を推進するための他者・地域との連携、他者への 3R の啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3R を推進するための仕組みづくり、3R を促進する製品の開発・普及などの活動

※ なお、他に比較して優れたところ、進んだところ、独自なところがあれば既に比較的普及している 3R の取組であっても対象となります。

○　推薦機関からの推薦締め切り
　平成 29 年 4 月 21 日（金）（必着）

○　推薦締め切り後のスケジュール
　審査結果通知：　平成 29 年 9 月中旬　予定
　表　彰　式：　平成 29 年 10 月 31 日（火）、東京　予定

○　ご提出先及びお問い合わせ先
　リデュース・リユース・リサイクル推進協議会事務局　表彰推薦受付係
　〒101-0044
　東京都千代田区鍛冶町二丁目 2 番 1 号
　三井住友銀行神田駅前ビル　一般社団法人産業環境管理協会内
　電話：　03-5209-7704　　FAX：　03-5209-7717

主催　リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

＜目　　次＞

表彰制度の概要、応募方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

推薦一覧　様式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

推薦書　様式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

候補者の概要書　様式 1（個人・グループ・学校用）・・・・・・・・・・・・・11

候補者の概要書　様式 2（事業所・地方公共団体等用）・・・・・・・・・・・・19

＜参考１＞リデュース・リユース・リサイクル（3R）の取組の例について・・・26

＜参考２＞過去に受賞した取組の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

表彰制度の概要、応募方法等

1.目　的

リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）（以下「3R」といいます）に率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている者を表彰することによりこれらの活動を奨励し、もって循環型社会の形成推進を図ることを目的としています。

2.主　催

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

3.後　援（予定）

財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

4.募集対象

循環型社会の形成に向け、廃棄物等の 3R に率先して取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている「個人・グループ・学校」及び「事業所・地方公共団体等」（以下「候補者」といいます）。なお、次のような活動が対象です（具体例は、26 ページの「表彰の募集対象となる 3R の取組の例」を参考にしてください）。

- 自らが 3R を実践する活動であり他の模範となる取組
- 3R を推進するための他者・地域との連携、他者への 3R の啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3R を推進するための仕組みづくり、3R を促進する製品の開発・普及などの活動

※ 推薦にあたっては「審査基準」（6 ページ）の評価項目をご考慮ください。

（対象者）

○「個人・グループ・学校」：　個人、自治会、ボランティア、学校　等

○「事業所・地方公共団体等」：　企業、工場、都道府県、市町村　等

※学校と企業などの連名の場合、どちらがより主体的に活動を行っているかによって「候補者の概要書」の様式を選んでください。不明な場合は、事務局（表彰推薦受付係）までご連絡ください。

5.賞の種類（予定）

(1) 内閣総理大臣賞

(2) 関係省庁大臣賞（各大臣賞の対象分野は以下のとおりです。）

大臣賞の名称	対象分野
財務大臣賞	財務省の所掌業務に関連する 3R 活動
文部科学大臣賞	文部科学省の所掌業務に関連する 3R 活動
厚生労働大臣賞	厚生労働省の所掌業務に関連する 3R 活動（医薬品等関係に限る）
農林水産大臣賞	農林水産省の所掌業務に関連する 3R 活動
経済産業大臣賞	経済産業省の所掌業務に関連する 3R 活動
国土交通大臣賞	国土交通省の所掌業務に関連する 3R 活動
環境大臣賞	環境省の所掌業務に関連する 3R 活動

(3) リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞

6. 募集方法

本表彰では、以下の①～③の推薦機関からの推薦により「4. 募集対象」に定める候補者を募集します。候補者が直接当協議会に自薦応募することはできません。

①リデュース・リユース・リサイクル推進協議会の会員団体

②地方自治体（都道府県、政令指定都市、中核市、特別区）　※平成 29 年 1 月基準

③建設副産物対策地方連絡協議会

7. 応募の方法

(1) 提出書類

推薦機関は、この推薦要領に定める様式により、以下の①推薦一覧、②推薦書（候補者 1 件につき 1 通ずつ作成）、③候補者の概要書（候補者に作成を依頼し、内容を確認）を提出してください。併せて、活動の様子がわかる写真、参考資料（パンフレット等）を添付してください。提出書類の様式、提出部数等は下表をご参照ください。

この推薦要領（Microsoft Word 形式）はリデュース・リユース・リサイクル推進協議会のホームページからダウンロードできますのでご利用ください。（http://www.3R-suishinkyogikai.jp/commend/suisen）

<table>
<tr><th colspan="2">提出書類</th><th>書類の
作成者</th><th>記入様式</th><th>提出部数
提出方法</th></tr>
<tr><td colspan="2">①推薦一覧（推薦案件全体に対して 1 通作成してください。）</td><td rowspan="2">推薦機関</td><td>7 ページ</td><td rowspan="4">■提出部数
・紙媒体 2 部（正・副）
・電子媒体 1 部
（電子媒体は、記入済の①～③の Microsoft Word ファイルを押印なしのまま CD-R 等で提出。）

■提出方法
・郵送又は持参</td></tr>
<tr><td colspan="2">②推薦書（1 件の候補につき 1 通ずつ作成し、「③候補者の概要書」を添付してください。）＊</td><td>9～10
ページ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③候補者の概要書</td><td>個人・グループ・学校用
【様式 1】</td><td rowspan="2">候補者</td><td>11～17
ページ</td></tr>
<tr><td>事業所・地方公共団体等用
【様式 2】</td><td>19～25
ページ</td></tr>
</table>

＊特に申し伝えたい事項（推薦理由等）がある場合には別紙で添付ください（様式任意）。

＜提出にあたって＞

・「③候補者の概要書」は、活動内容の写真（画像データ）や図表等を添付してください。
　また、活動内容に関する参考資料（パンフレット等）があれば、印刷物 2 部及び電子ファイル 1 部を提出してください。

・提出書類はホッチキス留めにせず、クリップで留めてください。

・電子媒体の①～③の書類（Microsoft Word ファイル）は、押印なしのままで提出してください。PDF ファイルなどに変換したものや、印刷したものをスキャナーで読み込んだものではなく、記入した Microsoft Word ファイルをそのまま提出してください。候補者一覧データの入力、表彰結果発表冊子の原稿作成に使用します。

・書き方が不明な場合、事務局（表彰推薦受付係）までご連絡ください。

⑵ 推薦機関からの提出期限

平成 29 年 4 月 21 日（金）（必着）

⑶ ご提出先

〒101-0044　東京都千代田区鍛冶町二丁目 2 番 1 号　三井住友銀行神田駅前ビル

一般社団法人産業環境管理協会内

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会事務局　表彰推薦受付係

8. 推薦にあたっての注意事項

①推薦書（印刷物 2 部）は必ず推薦機関の代表者（協議会会員団体の長、都道府県知事、政令指定都市市長、中核市市長、特別区区長、建設副産物対策地方連絡協議会会長）名で作成し、代表者印を押印のうえ提出してください（電子媒体は、押印なしのまま提出してください）。

②必ず事前に候補者の承諾を得ておいてください。

③推薦機関は、候補者に法令違反や係争・紛争、その他表彰対象者として相応しくない事項が無いかを確認のうえ推薦してください（推薦書のチェック項目をご活用ください）。

なお、チェック項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。

④過去に受賞した候補者を同じ取組内容で繰り返し推薦することはご遠慮ください。過去受賞時とは別の取組であれば推薦可能です。過去に受賞した企業の別の事業所や工場での活動、あるいは過去に受賞した建設会社や共同企業体が行う別の工事等は別の取組と見なします。

⑤過去受賞時の延長線上にある取組であっても、その後の拡大・発展が著しく上位賞の候補になると判断した場合は推薦可能です。その場合は、過去受賞時から拡大・発展したポイントについて、候補者の概要書の「過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況」欄に記入してください。

⑥同じ取組内容で過去 5 年間に他の表彰制度にて受賞した場合又は他の表彰制度に推薦されている若しくは応募中の場合、同じく「過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況」欄に記入してください。

⑦推薦機関は審査結果等については責任を負わないものとします。

9. 審　査

有識者等からなる「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰審査委員会」を設置し、「審査基準」（6 ページ）に基づき、応募案件の審査を行います。

10. 結果の通知

推薦機関に審査結果（入賞内定または選外）通知（9 月中旬予定）を送付した後、入賞内定者には内定通知（推薦機関へ通知した 1 週間～10 日後）を送付します。

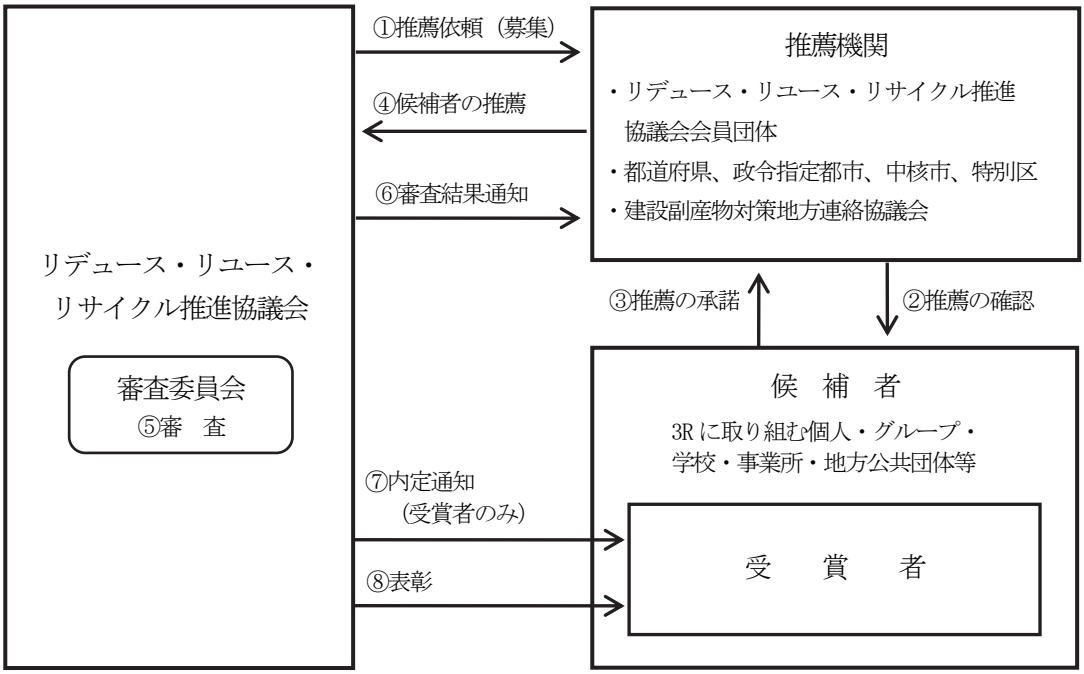
11. 表 彰 式

平成 29 年 10 月 31 日（火）　東京都内で挙行予定

12. 個人情報の取り扱いについて

推薦書、候補の概要書等に記入された個人情報は、本表彰の実施に関連する用途以外には使用しません。

13. 募集から表彰までの流れ



［ 募集から表彰までの流れ ］

平成29年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
審査委員会委員名簿（予定）

（敬称略）

氏名	所属機関
木　村　文　彦	東京大学名誉教授
大　石　美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 代表理事・副会長・環境委員長
角　田　禮　子	主婦連合会　参与
小　澤　紀美子	東京学芸大学名誉教授
小　林　治　彦	日本商工会議所　産業政策第二部長
斎　藤　正　一	日経ＢＰ　環境経営フォーラム事務局長
細　田　衛　士	慶應義塾大学　経済学部教授
山　名　規　雄	国　税　庁　長官官房審議官
有　松　育　子	文部科学省　生涯学習政策局長
椎　葉　茂　樹	厚生労働省　大臣官房審議官
井　上　宏　司	農林水産省　食料産業局長
末　松　広　行	経済産業省　産業技術環境局長
藤　田　耕　三	国土交通省　総合政策局長
中　井　徳太郎	環　境　省　大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長

＜別紙１＞

審 査 基 準

○個人・グループ・学校

評価項目	具体的な評価事項
継続期間	主体の特性に応じて活動の継続性を評価する。
対象品目・量等の実績、活動の効果	活動対象品目の範囲・3R 対象量等の活動実績及び活動により得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果等）を評価する。
地域性	活動範囲（実施主体の特性や活動内容を勘案しつつ、活動範囲の広さを評価する。） 他主体・他地域との連携（他の 3R 活動主体や他地域との連携について評価する。） 地域密着性（地域の特性や廃棄物問題を踏まえた活動であるかを評価する。）
活動頻度	活動頻度を評価する。
独創性・先鞭性	当該主体で考案された独自の活動か、先進的に取り組んだ活動かを評価する。
波及効果、 啓発・教育効果	他者の 3R 活動に与えた効果を評価する。また、機関誌の発行、講演会・研修会の開催等による啓発・教育活動を行っている場合は、その効果を評価する。
その他評価	リデュース・リユース・リサイクルの各分野にわたる活動、上記評価項目や点数配分では評価しきれない優れた項目、内容等があれば、加点する。

○事業所・地方公共団体等

評価項目	具体的な評価事項
継続期間	主体の特性に応じて活動の継続性を評価する。
対象品目・量等の実績、活動の効果	活動対象品目の範囲・3R 対象量等の活動実績及び活動により得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果等）を評価する。
地域性	活動範囲（実施主体の特性や活動内容を勘案しつつ、活動範囲の広さを評価する。） 他主体・他地域との連携（他の 3R 活動主体や他地域との連携について評価する。） 地域密着性（地域の特性や廃棄物問題を踏まえた活動であるかを評価する。）
独創性・先鞭性	独創性・先鞭性（製品、サービス、技術、社会システム等の開発を含む）を評価する。
波及効果、 啓発・教育効果	他者の 3R 活動に与えた効果を評価する。また、機関誌の発行、講演会・研修会の開催等による啓発・教育活動を行っている場合は、その効果を評価する。
その他評価	リデュース・リユース・リサイクルの各分野にわたる活動、上記評価項目や点数配分では評価しきれない優れた項目、内容等があれば、加点する。

（推薦機関が作成）

平成29年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
推　薦　一　覧

平成29年　　月　　日

推薦機関名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

No[*1]	候　補　者　名 （連名による候補の場合は、同じマスに名前を列記してください。）	「候補者の概要書」 の様式[*2]
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

＊1　11件以上の推薦がある場合、一覧を適宜追加し、番号は連番（11～）にて採番してください。
＊2　「様式１（個人・グループ・学校）」または「様式２（事業所・地方公共団体等）」のいずれかを記入ください。

推薦件数が１件の場合も、この一覧をご提出ください。

（推薦機関が作成）

平成29年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
推　薦　書

平成29年　　月　　日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会　御中

（推薦機関名）
（代表者役職・氏名）　　印

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の候補として下記の者を推薦します。

記

1. 候補者名（連名による候補の場合は、名前を列記してください。）

（推薦一覧のNo：　　）

2. 推薦機関における候補の選定方法（例：担当部署又は審査会設置による選定等）
〔　　〕

3. 取組内容の確認方法（例：現地調査又は候補者、関係者等のヒアリング等）
〔　　〕

4. 上記候補者の本年度の他の３Ｒ関係の表彰への推薦状況
上記候補者を本年度の他の３Ｒ関係の表彰に推薦している又は推薦を予定している場合には、その表彰について記入してください。

A．候補者の本年度の他の３Ｒ関係の表彰への推薦の実績や予定について該当するほうに○をしてください。 ある　・　ない
B．A．にて「ある」に○を付けた場合は下に当該表彰名を記入ください。 枠が足りない場合は、適宜追加してください。

該当するほうに○	表彰名
実績　・　予定	
実績　・　予定	
実績　・　予定	
実績　・　予定	
実績　・　予定	

※次ページに続きます

5. コンプライアンス等に関するチェック

上記候補者の推薦に当たり、以下の事項を確認し、該当する場合は□欄にチェックマーク(✓)を付けてください。

〇候補者に法令違反の事実は無い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

〇係争・紛争等の問題は無い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

〇その他受賞者として相応しくない事項は無い・・・・・・・・・・・・□

注）これらの項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。

6. 当推薦についての推薦機関の連絡先等

推薦機関名		
住所		（〒　　-　　）
連絡先＊	所属部署	
	氏名	
	電話番号	
	ＦＡＸ番号	
	Ｅメール	

＊「連絡先」は、この推薦の件に関する連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください。

様式１
（個人・グループ・学校用）

（候補者が作成し推薦機関に提出）

候補者の概要書（個人・グループ・学校用）

１．候補者の名称、連絡先等

①候補者名*1 （個人・グループ・学校の名称） **＊1　表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく 30 字以内にしてください。**		ﾌﾘｶﾞﾅ（半角ｶﾅ）： （個人の場合この欄に押印）印
②取組の実践場所 （都道府県及び市区町村まで記入）		
③代表者役職・氏名 （グループ・学校の場合のみ）		印
④連絡先 **（連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください。）**	住所	（〒　　-　　）
	所属機関等の名称	
	部署・役職	
	氏名	
	電話番号	
	ＦＡＸ番号	
	Ｅメール	

連名による応募の場合、もう１者の名称・連絡先等を記入し各者押印してください。3 者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加してください。

①候補者名*1 （個人・グループ・学校の名称） **＊1　表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく 30 字以内にしてください。**		ﾌﾘｶﾞﾅ（半角ｶﾅ）： （個人の場合この欄に押印）印
②取組の実践場所 （都道府県及び市区町村まで記入）		
③代表者役職・氏名 （グループ・学校の場合のみ）		印
④連絡先 **（連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください。）**	住所	（〒　　-　　）
	所属団体等の名称	
	部署・役職	
	氏名	
	電話番号	
	ＦＡＸ番号	
	Ｅメール	

２．3R 活動の実施内容（推薦対象の 3R 活動の内容について記入してください。）

※欄内の説明文（コメント）、記入例は削除し、ご記入ください。

① 活動テーマ名
推薦対象の 3R 活動の内容を端的に表すテーマ名を 40 字以内で付けてください。

② 活動概要（表彰結果発表冊子に使用します。非公開の情報は「③活動の詳細内容」にご記入ください。）
活動内容を、写真、図表なども含めて、当枠内に記入してください（MS 明朝、9 ポイント）。 ※ 枠を拡げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。 ご記入内容は以下のとおりです。 （1）どのような 3R 活動か （2）取組のポイント、特長 （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ （4）今後の予定 など 注釈 1. 写真、図表等を活用して、取組の特長などが伝わるようにご記入ください。 2. 当欄の記入内容は、受賞取組をまとめた表彰結果発表冊子に使用いたします。非公開の情報など一般公開できない内容がある場合には、当欄ではなく次ページ「3. 活動の詳細内容（審査用）」にご記入ください。 3. 過去の内閣総理大臣賞受賞者の活動概要（表彰結果発表冊子）を 29 ページに添付していますので、ご参照ください。また、それ以外の受賞者の活動概要もリデュース・リユース・リサイクル推進協議会ホームページからダウンロードできますので、ご記入の際の参考にしてください。 （http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki）

※枠はこのまま使用して、拡げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。

以下の各項目は、全項目が審査対象（未記入の場合は、当該欄の評価点がゼロ）となりますので、必ず全項目（③～⑫）ご記入ください（6 ページ「審査基準」ご参照）。

（③以降の記入欄の大きさが足りない場合は、枠を適宜拡げてご記入ください。）

③ 活動の詳細内容（審査用。非公開）
3R 活動の具体的な実施内容について、写真・図表等を用いてご記入ください。 （1）どのような 3R 活動であるかの詳細 （2）取組のポイント、特長の詳細 （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところの詳細 （4）今後の予定の詳細 など

④ 3R 活動の区分

実施している活動の区分について、該当するものに○を付けてください（複数選択可）。リデュース・リユース・リサイクルのどれに該当するか判断が付きにくい場合は、26 ページの「表彰の募集対象となる 3R の取組の例」を参考にしてください。

リデュース	リユース	リサイクル	啓発普及等

⑤ 活動開始時期・継続年数

3R 活動を開始した年月及び継続年数を記入してください。

⑥ 対象品目・量等の実績

3R 活動の対象品目、および過去 3 年間にリデュース、リユースまたはリサイクルした量の実績を記入してください（重量、体積、数量の単位は適宜変えてください）。なお、リサイクルの場合は、再生品の名称や用途（例：再生紙等）を記入してください。

＜リデュース＞

年度／品目	年度	年度	年度
	t m^3	t m^3	t m^3
	t m^3	t m^3	t m^3
（説明・ポイント・補足など記入してください。）			

＜リユース＞

年度／品目	年度	年度	年度
	t m^3	t m^3	t m^3
	t m^3	t m^3	t m^3
（説明・ポイント・補足など記入してください。）			

＜リサイクル＞

年度／品目	年度	年度	年度
	t m^3	t m^3	t m^3
	t m^3	t m^3	t m^3
（説明・ポイント・補足など記入してください。）			

⑦ 活動の効果

3R 活動の実施により得られた効果をできるだけ具体的に記入してください。
「⑥対象品目・量等の実績」の付帯効果、波及効果、書ききれない効果、また「⑥対象品目・量等の実績」に記入したもの以外の内容があれば、記入してください。

【廃棄物の削減効果】

【省資源・省エネルギー効果】

【環境保全効果】

【その他の効果】

⑧活動地域の範囲、他の 3R 活動主体や他地域との連携協力、地域密着性

3R 活動の実施地域の範囲を記入してください。

他の 3R 活動主体や他地域との連携・協力について具体的に記入してください。

地域の特性や廃棄物問題を踏まえた 3R 活動である場合には、その内容を具体的に記入してください。

⑨活動の頻度

3R 活動の実施頻度を記入してください。

（記入例）びんの回収：週１回、古紙の回収：毎日、フリーマーケット開催：月１回等

⑩独創性・先鞭性

他の取組に比較して優れているところ、進んでいるところ、独自なところを記入してください。

⑪啓発普及・教育活動の実施、波及効果

3R に関する啓発・教育活動の実施内容と成果を具体的に記入してください。

他のグループ・学校等の 3R 活動に与えた波及効果を具体的に記入してください。

⑫その他活動の工夫点

上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点等を記入してください。

3. 過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況

今回推薦される内容が、下記(A)～(D)に該当する場合、以下の表にご記入ください。

(A) 本表彰制度で、今回推薦される内容と関連した活動で過去に受賞

(B) 本表彰制度で、今回推薦される内容とは違うテーマの活動で過去に受賞

(C) 他の表彰制度で、今回推薦される内容と関連した活動で過去5年間に受賞

(D) 他の表彰制度で、今回推薦される内容と関連した活動で推薦されている又は応募中（予定も含む）

受賞歴及び応募状況（上記(A)～(D)を記入）	表彰制度名（上記(C)、(D)の場合、記入）	受賞年度（上記(A)～(C)の場合、記入）	受賞した賞の種類（上記(A)～(C)の場合、記入）	受賞時のグループ名・学校名が現在と異なる場合、当時の名称（上記(A)～(C)で該当する場合、記入）

上記で(A)、(C)に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、3R実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的にご記入ください。

記入例は削除して、ご記入ください。

	過去（　　年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
3R活動の内容（拡大発展したポイントが分かるように対比）	（記入例） ・資源ごみの集団回収活動 ・生ごみの堆肥化	（記入例） 左記の活動に加え、○○年から家具・日用品等の修理・不用品交換の事務局活動を開始、リサイクルのみならずリユースにも取り組むようになった。また、資源回収の対象品目も増え、活動の参加者やリサイクル量実績も格段に進展した。
3R対象品目について	（記入例） ・集団回収：　古紙、ガラスびん、アルミ缶 ・堆肥化：　生ごみ	（記入例） ・集団回収：　古紙、ガラスびん、アルミ缶、PETボトル ・堆肥化：　生ごみ ・不用品交換：　家具・衣類・日用品・図書等
3Rの実績量について	（記入例） ・古紙回収量：　500kg／年 ・ガラスびん回収量：　1,200本／年 ・アルミ缶回収量：　200kg／年 ・生ごみ処理量：　150kg／年 （堆肥生産量　：40kg／年）	（記入例） ・古紙回収量：　1,200kg／年 ・ガラスびん回収量：　2,500本／年 ・アルミ缶回収量：　800kg／年 ・生ごみ処理量：　500kg／年 （堆肥生産量：　200kg／年） ・不用品交換の成立実績：　120件／年
活動の実施地域について	（記入例） ○○町内で実施	（記入例） ○○町に加え、隣接する××町、△△町に活動範囲を拡大
活動の参加者数について	（記入例） ○○町内の25世帯が活動に参加	（記入例） ○○町50世帯、××町15世帯、△△町20世帯が活動に参加するようになった。
活動の質的な向上について	（記入例） 生ごみ堆肥は、グループメンバーが自宅の庭や家庭菜園で使用	（記入例） 左記に加え、地元農家に協力を求め、野菜栽培に生ごみ堆肥を使ってもらうようになった。
上記以外の進展事項、アピールしたいポイント	（記入例） 他の3R活動グループとの情報交流を通じて活動のレベルアップを図るために、平成○○年にホームページとインターネット掲示板を開設した（アドレス　http://○○○○.jp）。	

様式　2
（事業所・地方公共団体等用）

（候補者が作成し推薦機関に提出）

候補者の概要書（事業所・地方公共団体等用）

1．候補者の名称、連絡先等

①候補者名*1 （事業所・地方公共団体等の名称） **＊1　表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく 30 字以内にしてください。**		ﾌﾘｶﾞﾅ（半角ｶﾅ）：
②取組の実践場所 （都道府県及び市区町村まで記入）		
③代表者役職・氏名		印
④連絡先 **（連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください。）**	住所	（〒　　-　　）
	所属企業・機関名	
	部署・役職	
	氏名	
	電話番号	
	ＦＡＸ番号	
	Ｅメール	

連名による応募の場合、もう 1 者の名称・連絡先等を記入し各者押印してください。3 者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加してください。

①候補者名*1 （事業所・地方公共団体等の名称） **＊1　表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく 30 字以内にしてください。**		ﾌﾘｶﾞﾅ（半角ｶﾅ）：
②取組の実践場所 （都道府県及び市区町村まで記入）		
③代表者役職・氏名		印
④連絡先 **（連絡・問合せ等に対応できる担当者を記入してください。）**	住所	（〒　　-　　）
	所属企業・機関名	
	部署・役職	
	氏名	
	電話番号	
	ＦＡＸ番号	
	Ｅメール	

2. 3R 活動の実施内容

※欄内の説明文（コメント）、記入例は削除し、ご記入ください。

① 活動テーマ名
推薦対象の 3R 活動の内容を端的に表すテーマ名を 40 字以内で付けてください。
② 活動概要（表彰結果発表冊子に使用します。非公開の情報は「③活動の詳細内容」にご記入ください。）
活動内容を、写真、図表なども含めて、当枠内に記入してください（MS 明朝、9 ポイント）。 ※ 枠を拡げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。 ご記入内容は以下のとおりです。 （1）どのような 3R 活動か （2）取組のポイント、特長 （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ （4）今後の予定 など 注釈 1. 写真、図表等を活用して、取組の特長などが伝わるようにご記入ください。 2. 当欄の記入内容は、受賞取組をまとめた表彰結果発表冊子に使用いたします。非公開の情報など一般公開できない内容がある場合には、当欄ではなく次ページ「3. 活動の詳細内容（審査用）」にご記入ください。 3. 過去の内閣総理大臣賞受賞者の活動概要（表彰結果発表冊子）を 29 ページに添付していますので、ご参照ください。また、それ以外の受賞者の活動概要もリデュース・リユース・リサイクル推進協議会ホームページからダウンロードできますので、ご記入の際の参考にしてください。 （http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki）

※枠はこのまま使用して、拡げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。

以下の各項目は、全項目が審査対象（未記入の場合は、当該欄の評価点がゼロ）となりますので、必ず全項目（③～⑫）ご記入ください（6 ページ「審査基準」ご参照）。

（③以降の記入欄の大きさが足りない場合は、枠を適宜拡げてご記入ください。）

③ 活動の詳細内容（審査用。非公開）
3R 活動の具体的な実施内容について、写真・図表等を用いてご記入ください。 （1）どのような 3R 活動であるかの詳細 （2）取組のポイント、特長の詳細 （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところの詳細 （4）今後の予定の詳細 など

④ 3R 活動の区分

実施している活動の区分について、該当するものに○を付けてください（複数選択可）。リデュース・リユース・リサイクルのどれに該当するか判断が付きにくい場合は、26 ページの「表彰の募集対象となる 3R の取組の例」を参考にしてください。

リデュース	リユース	リサイクル	啓発普及等

⑤ 活動開始時期・継続年数

3R 活動を開始した年月及び継続年数を記入してください。

⑥ 対象品目・量等の実績

3R 活動の対象品目、および過去 3 年間にリデュース、リユースまたはリサイクルした量の実績を記入してください（重量、体積、数量の単位は適宜変えてください）。なお、リサイクルの場合は、再生品の名称や用途（例：再生紙、ガス化燃料、セメント原料、高炉還元材利用等）を記入してください。

＜リデュース＞

年度／品目	年度	年度	年度
	t m^3	t m^3	t m^3
	t m^3	t m^3	t m^3
（説明・ポイント・補足など記入してください。）			

＜リユース＞

年度／品目	年度	年度	年度
	t m^3	t m^3	t m^3
	t m^3	t m^3	t m^3
（説明・ポイント・補足など記入してください。）			

＜リサイクル＞

年度／品目	年度	年度	年度
	t m^3	t m^3	t m^3
	t m^3	t m^3	t m^3
（説明・ポイント・補足など記入してください。）			

⑦活動による効果

3R 活動の実施により得られた効果をできるだけ具体的に記入してください。
「⑥対象品目・量等の実績」の付帯効果、波及効果、書ききれない効果、また「⑥対象品目・量等の実績」に記入したもの以外の内容があれば、記入してください。

【廃棄物の削減効果】

【省資源・省エネルギー効果】

【環境保全効果】

【その他の効果】

⑧活動地域の範囲、他の 3R 活動主体や他地域との連携協力、地域密着性

3R 活動の実施地域の範囲を記入してください。

他の 3R 活動主体や他地域との連携・協力について具体的に記入してください。

地域の特性や廃棄物問題を踏まえた 3R 活動である場合には、その内容を具体的に記入してください。

⑨独創性・先鞭性

他の取組に比較して優れているところ、進んでいるところ、独自なところを記入してください。

⑩啓発普及・教育活動の実施、波及効果

3R に関する啓発・教育活動の実施内容と成果を具体的に記入してください。

他の事業所等の 3R 活動に与えた波及効果を具体的に記入してください。

⑪その他活動の工夫点

上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点等を記入してください。

⑫他の企業等の協力

他の企業等（納入業者・下請け企業・廃棄物処理業者・リサイクル業者等）の協力を得て 3R 活動を行っている場合、以下を記入してください。

(a) 協力を得ている内容を記入してください。

協力企業の業種	協力を得ている事項
（記入例） 建材メーカー	（記入例） 当工場で発生する廃棄パレットを原料にパーティクルボードを生産している。
（記入例） 資材納入業者	（記入例） 資材の空き容器を引き取ってもらっている。

(b) 協力企業における自社発生物のリサイクル状況の把握及び協力企業に対する支援等を行っている場合は、その内容を記入してください。

（記入例）
・年１回、委託先の現地調査を行い、引き渡した廃棄物が確実に再生利用されたことを確認
・廃液のリサイクルを委託するにあたって、共同で再生技術の研究開発を行った。

3. 過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況

今回推薦される内容が、下記(A)～(D)に該当する場合、以下の表にご記入ください。

(A) 本表彰制度で、今回推薦される内容と関連した活動で過去に受賞

(B) 本表彰制度で、今回推薦される内容とは違うテーマの活動で過去に受賞

(C) 他の表彰制度で、今回推薦される内容と関連した活動で過去5年間に受賞

(D) 他の表彰制度で、今回推薦される内容と関連した活動で推薦されている又は応募中（予定も含む）

受賞歴及び応募状況（上記(A)～(D)を記入）	表彰制度名（上記(C)、(D)の場合、記入）	受賞年度（上記(A)～(C)の場合、記入）	受賞した賞の種類（上記(A)～(C)の場合、記入）	受賞時の会社名・事業所名が現在と異なる場合、当時の名称（上記(A)～(C)で該当する場合、記入）

上記で(A)、(C)に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、3R実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的にご記入ください。

記入例は削除して、ご記入ください。

	過去（　　年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
3R 活動の内容（拡大発展したポイントが分かるように対比）	（記入例） 工場で発生する各種廃棄物・副産物を極力工場内でリサイクルするとともに、自社内で利用できないものは、リサイクル業者の協力により各種リサイクル製品の原料として有効利用を図った。これにより、最終処分量を5年前の1／5（発生量の20%）に削減した。	（記入例） 左記の取組に加え、工場内の各工程において製法・工法の改良、歩留り改善、容器・梱包等のリターナブル化等の手段によって、廃棄物・副産物の発生そのものを大幅に削減した。 これにより、最終処分量ゼロを達成した。
3R対象品目及び実施方法について	（記入例） ・塗料かす：樹脂成型品の増量材として再資源化 ・洗浄用有機溶剤：蒸留して低品位溶剤に再生 ・プラスチック端材：溶融ペレット化して売却 ・段ボール箱：古紙回収業者に引き渡しリサイクル ・廃木製パレット：破砕・チップ化して建材ボード原料としてリサイクル	（記入例） ・塗料かす：静電塗装の採用で発生量を90%削減 ・洗浄用有機溶剤：純水洗浄に切替え全廃 ・プラスチック端材：工程内で100%循環利用 ・段ボール箱：通い箱に切替え発生量を95%削減 ・廃木製パレット：長寿命型のプラ製パレットの採用で発生量を60%削減。破損パレットは補修して再使用
活動の実施地域について	（記入例） 当社○○工場、××工場の2事業所で実施	（記入例） 左記に加え、当社□□工場、△△工場及びグループ企業の2工場に技術移転を行い、現在全国6事業所で実施している。
活動の質的な向上について		（記入例） 前回受賞時の取組内容はリサイクルに限定されていたが、現在は各工程で3R全般にわたる取組を組み合わせ、高い効果をあげることができた。
上記以外の進展事項、アピールしたいポイント	（記入例） 製法・工法の改良による副産物の発生削減技術は特許を取得した。この特許技術は同業他社や他業種の工場にも採用され、各種産業におけるリデュースの推進に寄与している。	

＜参考１＞

表彰の募集対象となるリデュース・リユース・リサイクル（3R）の取組の例

＜対象となる取組＞

- 自らが 3R を実践する活動であり他の模範となる取組
- 3R を推進するための他者・地域との連携、他者への 3R の啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3R を推進するための仕組みづくり、3R を促進する製品の開発・普及などの活動

※ なお、他に比較して優れたところ、進んだところ、独自なところがあれば既に比較的普及している 3R の取組であっても対象となります。

具体的な取組事例は次のとおりです。

１．リデュース（Reduce＝発生抑制）

製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。
耐久性の高い製品の提供や製品寿命延長のためのメンテナンス体制の工夫なども含まれます。

（取組の例）

＜個人・グループ・学校＞

○マイバックを持って無駄な包装は断る。
○詰め替え容器に入った製品や簡易包装の製品を選ぶ。
○耐久消費材は手入れや修理をしながら長く大切に使う。
○利用頻度の少ないものは、レンタルやシェアリングシステムを利用する。
○耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。

＜事業所・地方公共団体等＞

○製品を設計する時に、製品ができるだけ長く使えるように工夫をする（耐久性、修理性等）。
○製品を設計する時に、製品ができるだけ少ない材料、部品等で構成されるように工夫する（省資源化）。
○製品をつくる時に、原材料を無駄なく効率的に使うように工夫する。
○修理や点検等のアフターサービスを充実することにより、製品の長期使用促進に努める。
○簡易梱包、簡易包装、詰め替え容器、通い箱等の利用、普及に努める。
○機械器具等の手入れ方法や修理方法を工夫して長期使用に努める。
○利用頻度の少ないものをシェアする仕組み、不用品を有効に活用する仕組みをつくる。
○耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。

２．リユース（Reuse＝再使用）

使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。

その実現を可能とする製品の提供、修理・診断技術の開発、リマニュファクチャリングなども含まれます。

（取組の例）

＜個人・グループ・学校＞

○リターナブル容器に入った製品を選び、使い終わった時にはリユース回収に出す。

○フリーマーケットやガレージセール等を開催し、不用品の再使用に努める。

＜事業所・地方公共団体等＞

○製品を設計する時に、本体や部品のリユースがしやすいように工夫をする。

○使用済製品を回収して本体や部品を再生し、再び新品同様の製品を作り出す。

○使用済製品、部品、容器を回収し、再使用する。

３．リサイクル（Recycle＝再資源化）

廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること。

その実現を可能とする製品設計、使用済製品の回収、リサイクル技術・装置の開発なども含まれます。

（取組の例）

＜個人・グループ・学校＞

○資源ごみの分別回収に協力する。

○資源ごみの効率的な分別回収を広める。

○リサイクル製品を積極的に利用する。

＜事業所・地方公共団体等＞

○製品を設計する時に、使用後のリサイクルがしやすいように工夫をする。

○製品をつくる時に、できるだけリサイクル原材料を使う。

○使用済みとなった自社製品の回収・リサイクルに努める。

○発生した副産物・使用済製品を効率的にリサイクルする（仕組みづくりを含む）。

注釈

町の美化、公衆衛生の向上、公害防止（大気、水質等）、地球温暖化防止などは、資源の有効利用を目的とした３Ｒ活動の付随的な効果としては評価の対象ですが、これらが主たる取組の場合は本表彰の対象外です。

＜参考２＞

過去に受賞した取組の紹介

ご参考までに、過去の表彰で内閣総理大臣賞を受賞した取組概要を紹介いたします。

なお、その他の受賞取組（各大臣賞及びリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞）についても、協議会ホームページにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

＜表彰実績のページ＞

協議会ホームページ トップ ＞ 「３Ｒ推進功労者等表彰」 ＞ 「表彰実績」

http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki

●受賞取組

＜平成２８年度受賞＞

「事業所・地方公共団体等」分野

株式会社リコー　リコー環境事業開発センター

＜平成２７年度受賞＞

「事業所・地方公共団体等」分野

株式会社ウジエスーパー／株式会社ウジエクリーンサービス（二者連名）

＜平成２６年度受賞＞

「事業所・地方公共団体等」分野

宝酒造株式会社

＜平成２５年度受賞＞

「事業所・地方公共団体等」分野

トヨタ自動車株式会社／豊田通商株式会社（二者連名）

＜平成２４年度受賞＞

「個人・グループ・団体」分野

特定非営利活動法人ごみじゃぱん

「事業所・地方公共団体等」分野

西北プライウッド株式会社／株式会社イトーキ（二者連名）

内閣総理大臣賞（１件）

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

株式会社リコー　リコー環境事業開発センター

所在地

静岡県御殿場市

受賞テーマ

リユース・リサイクル技術の開発と実践による回収 OA 機器の徹底活用

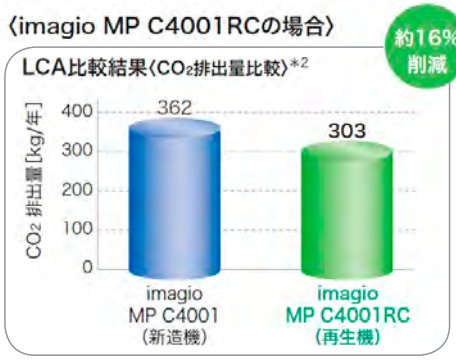
受賞者は、「環境技術の実証研究」と「リユース・リサイクル技術の実践・最適化」を通じてこれまでの事業領域にとらわれない新規事業の創出を目指しており、そのなかのひとつとして OA 機器再生センターの役割を持っている。
「リユース・リサイクル技術の実践・最適化」として、全国 12 箇所に分散していた OA 機器のリユース・リサイクル機能を 3 箇所に統合し最適化を図り、同センターはその中心的な拠点となって技術開発を主導し、これまで培ってきたリユース・リサイクル技術をさらに発展させ、対象とする製品・領域を拡充してリコーグループの収益力を強化していく。

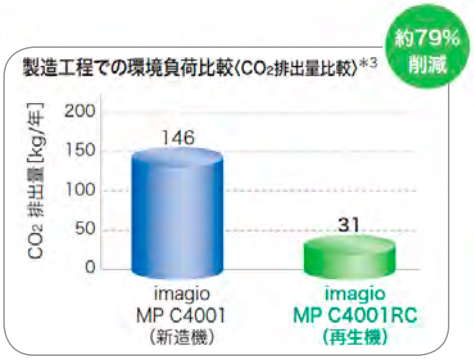
同センターには、日本全国から回収されたリコー製品（複写機・プリンター類）が集められる。回収された製品は、
①リコンディショニング機として再生、
②リユース可能部品を抜き取り、交換部品等に利用、
③マテリアルリサイクル等での活用
というように、その製品の状態に応じて活用されている。

①　リコンディショニング機（RC 機）として再生

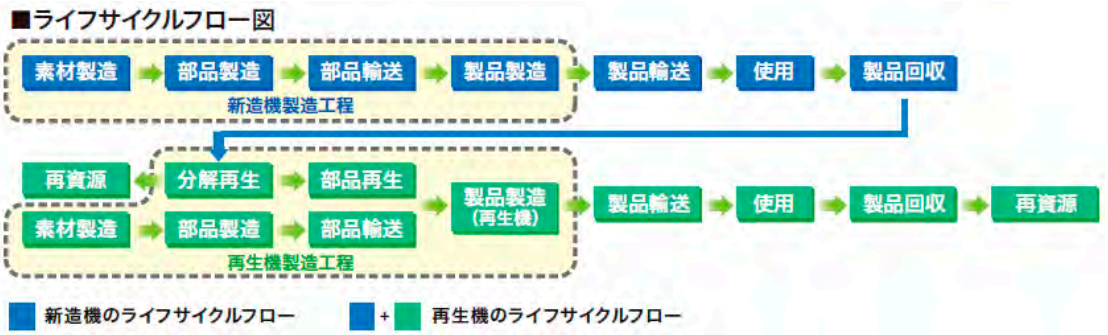
回収した製品に対し、先進の技術によって再生処理を行う。リユース部品の使用率は質量比で平均 80%を達成し、製造工程における CO_2 の排出量は新造機と比較して約 79%削減した（下図）。またリユース部品を使用しながら、新造機と同等の品質検査をクリアしている。同センターでは、今まで分散していた再生拠点の技術を集めることで、より高効率・低コストの再生体制を構築することが可能となった。

imagio MP C4001RC





※リコー調べ。（2016 年 5 月現在）



② リユース可能部品を抜き取り、交換部品等に利用

①の再生機としての活用が難しい回収機は、機械中の利用可能な部品を抜き取り、再生処理を行い、顧客先で交換部品等として活用されている。

③ マテリアルリサイクル等での活用

リユースが難しいものについては、リサイクル・再資源化を行い、最終処分される量を徹底的に削減している。例えば、筐体に使用されていたプラスチックの一部を回収し、材料メーカーに供給することで、リコーの新製品筐体のプラスチックとして再使用される、プラスチック・クローズド・マテリアル・リサイクル（PCMR）の体制を整えている。

＜活動による効果＞

【廃棄物の削減効果】

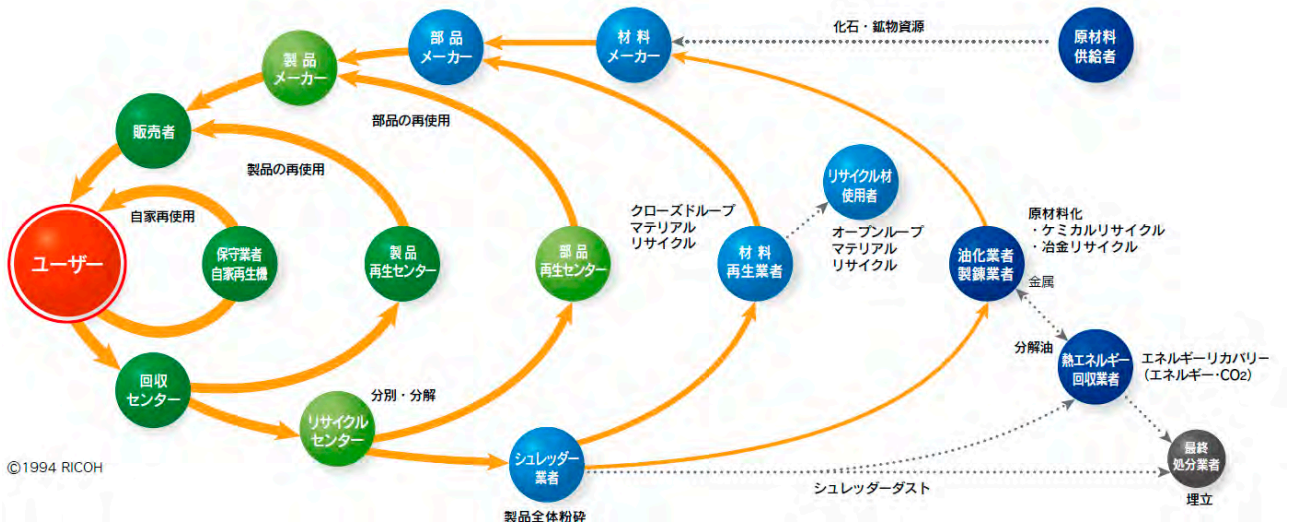
同活動により、回収された製品の再資源化率は 99%を超えている。また、2014 年度の日本国内における実績値は、複写機で 99.74%の再資源化率を達成している。同センターの技術開発により、より高度な再資源化処理となることが期待される。

【省資源・省エネルギー効果】

製品・部品リユースによる、原材料・部品調達起因の CO_2 排出量の削減効果は、約 2 万 8 千トンになる（リコーによる LCA 算定結果を利用）。

＜コメット・サークル＞

同社では、1994 年に制定した持続可能な社会実現のためのコンセプトである、多層構造のリサイクル（再使用・再資源化）システム「コメット・サークル」に基づいて、今後もより環境負荷の低いリユース・リサイクル活動を進めていこうと考えている。同センターで培ったリユース・リサイクル技術は、今後もリコーグループの海外拠点へと水平展開し、グローバルでの省資源化活動を加速していく方針である。



このコメット・サークルの資源の経済的価値が最も高いのは、「製品として顧客に使用してもらっている状態」である。リコーグループでは、使用済み製品を再び経済価値の高い状態に戻すため、コメット・サークルの内側ループである製品のリユース、部品のリユースを優先的に採用している。部品としてリユースできないものはマテリアルリサイクルに回るが、その場合も高品質な素材へのリサイクル、再び自社で使う資源に戻すクローズドループのリサイクルを進め、より高い経済価値を追求している。

内閣総理大臣賞（１件）

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

株式会社ウジエスーパー

株式会社ウジエクリーンサービス

所在地

宮城県登米市

受賞テーマ

『エコーガニック　with　ノーマライゼーション』

食品スーパーが提案する環境ループ事業

受賞者（ウジエスーパー）は、日本有数の米どころ登米市に本拠地を置き宮城県内に 30 店舗を展開する、地産地消を積極的に取り組んでいる地域密着型の食品スーパーである。同社の障がい者特例子会社として、平成 18 年 3 月に設立したのが受賞者（ウジエクリーンサービス）である。

スーパーでは毎日大量の廃棄物が発生するが、野菜や果物などをクリーンサービスで有機質肥料にしている。地元の農家・醸造会社と連携して、この肥料を使用した米を作り、さらにその米で作った高品質の味噌を作るなど、廃棄物を付加価値のより高いものに変える食品リサイクル・ループを構築している。リサイクル・ループは、再生利用事業計画の大臣認定を受けており、食品リサイクル率は 65.2%（平成 25 年度）を達成している。

作られた米や味噌は、受賞者が全量買い取り、それらを自らプライベートブランド商品として販売することによって、リサイクル・ループが持続するように取り組んでいる。地域密着型という強みを生かし、地元の会社と一緒に取り組むことによるリサイクル・ループを通じた地域活性化に貢献し、これらの活動を障がい者と一緒に行うことでノーマライゼーションを推進している。

受賞者は元々、障がい者雇用と共に分別リサイクルに取り組み始め、営業活動を通して排出される廃棄物を少なくする努力をしていたが、更に環境に優しい廃棄物処理の方法を探していたところ、24 時間で野菜・果物の残さを完熟発酵させて有機質肥料をつくる装置があることを知った。この装置の特徴として、作業工程が【生ゴミを入れる】→【できあがった肥料を取り出す】と簡素化されていて、障がい者でも作業が可能であった。この装置を取得し、つくった有機質肥料は、無限にリサイクルができるようにという想いを込めて『無限』と名づけて商標登録した。

食品残さを収集運搬するパッカー車（左）、食品残さに異物が混入していないか確認（中）、有機質肥料『無限』（右）

この『無限』を使い、豊かな登米耕土の力で、地域と共に米を通した地域おこし・登米のブランド力向上に活かしたいとの想いから、登米ブランドの構築に精力的であった登米市の市長に相談したところ、地元で代々続いている専業農家を紹介してもらった。

始めは生産者も化学肥料や農薬の使用を抑えた米づくりに対して心配をしていたが、何度も打ち合わせを行ない、有機質肥料『無限』を使用した稲作栽培が始まった。『無限』で作られたお米は、地元登米市の水田で丁寧に作り、登米が元気になるようにという想いを込め、「登米」の地名にちなんだ『無限のぼり米』と名づけた。この『無限のぼり米』は、受賞者が全量買い取り、販売している。

平成 20 年からは、地元の石越醸造と連携して無限のぼり米を 100%使用した純米吟醸酒を造り、平成 21 年 3 月全店舗にて限定販売を開始した。このお酒を通して登米に恋して欲しいとの想いを込めて『恋のぼり』と名づけた（期間限定生産）。

平成 21 年 12 月からは、同じく地元のヤマカノ醸造と連携して無限のぼり米 100%と登米市中田町産特別栽培大豆を使用した十割麹味噌『夢のぼり』の仕込みに着手し、販売している。

『無限のぼり米』

『恋のぼり』

『夢のぼり』

また、『かだっぱり』というプライベートブランドを作った。かだっぱりとは登米の方言で良い意味の“頑固者”のことである。有機質肥料『無限』を使用して野菜を栽培・収穫し、それらを全量買い取り、スーパー全店舗にて『無限かだっぱり』として販売している。

平成 21 年 3 月からは、障がい者自らが田畑を耕して有機質肥料無限を使用し無農薬・無化学肥料にて栽培する『無限てるてるファーム』を始めた。天日干しの稲作や季節の野菜づくりを行なっている。

平成 26 年からは、東京に本社があるカミツレ研究所からの委託によりカモミールの栽培を開始した。カモミールは、農薬や化学肥料を使用せず、天日乾燥させている。

他に、レジ袋有料化、販売期限や消費期限の近づいている商品を独自のウジエコシールを貼って値引きのお知らせ、店舗から排出されるダンボール、紙類、廃食油、魚あら、生肉くず等を分別してリサイクルや飼料化。
また、登米市と連携し廃食油を店頭で回収し障害者施設にて BDF 化する取組を始めている。

カモミール栽培

ウジエコシール

内閣総理大臣賞（１件）

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

宝酒造株式会社

所在地

京都府京都市

受賞テーマ

「容器の３Ｒにリフューズ(Refuse：発生回避)を加えた４Ｒの取り組みの推進」

同社は、焼酎や清酒、チューハイ、本みりんなどを製造し、ガラスびんやペットボトル、アルミ缶、紙パックなど様々な容器に充填して販売している。これらの商品の中身が消費されたあとに発生する空容器が社会に大きな環境負荷を与えていることから、同社では空容器問題への取り組みを自然環境保護と並ぶ環境活動の２本柱と位置付け、長年にわたり継続して取り組んでいる。

例えば、1989 年に日本で初めてステイオンタブ(SOT)を採用、1994 年に主力商品である宝焼酎「純」、「純」レジェンドをリターナブル化、1998 年に焼酎のはかり売りを開始しており、これらは現在も継続して実施している。

商品開発では、リデュース、リユース、リサイクルの３Ｒに、同社独自の取り組みとして、余分なもの(容器)を買わず必要なもの(中身)だけを購入するリフューズを加えた４Ｒの取り組みを「環境に配慮した商品開発のための指針」に基づき進めている。

【リフューズ】

1998 年から、新たな容器を使用せず中身だけを購入する「焼酎のはかり売り」を開始した。

1 kℓと 200 ℓのはかり売り専用タンクを開発し、工場でこの専用タンクに焼酎を詰めて販売店に直送する形で実施している。消費者は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、販売店でその容器に消費者が必要な分だけ詰めて購入する仕組みである 1998 年の開始以来 2014 年 3 月末迄に、2.7 ℓペットボトル換算で約 752 万本と段ボール約 188 万枚を節約している。

【リユース】

一升びんの使用は国内トップクラス。国内リユース･システムを維持するため、Ｐ函出荷を堅持(一部例外あり)。また、主力製品である宝焼酎「純」、「純」レジェンドの 720 mℓびんをリターナブル壜に変更し、2014 年 3 月末現在、累計約 9,300 万本のリターナブルびん(洗い壜)を購入･使用している。.

(右の写真はＰ函。びんを良い状態で回収するために採用している。)

【リデュース】

あらゆる容器のリデュースを継続して進めている。2002 年度に焼酎エコペット*を、2003 年度に宝焼酎「純」720 mℓリターナブルびんを軽量化した。さらに、2004 年度には「タカラ有機本みりん」に従来のものと比べ約 3 割、約 100 g も軽い“超軽量ガラスびん”を採用した。その後も、種々の容器の軽量化に継続して取り組んでいる。

＊ エコペットについては、酒類業界で初めてＰＥＴボトルリサイクル推進協議会の第二種指定ＰＥＴボトルの自主設計ガイドラインに完全対応した商品「宝焼酎 2.7 ℓ<エコペット>」を発売した。

【リサイクル】

1999 年から、本みりんや料理用清酒に使用後の分別リサイクルが簡単にできる機能をもった「はずせるキャップ」を採用した。タカラ本みりん「醇良」は、酒類・調味料製品で初めて「はずせるキャップ」を採用した商品である。

2007 年に、清酒の外装フィルムにトウモロコシでんぷんを原料とする生分解性プラスティックを清酒業界で初めて採用した。

2011 年に、清酒松竹梅「天」に、飲み終わった後に手軽に丸めてコンパクトにしてリサイクルに出せるパウチパックを採用し、その後も対象を他のアイテムにも拡大している。

【工場の副産物･廃棄物の再資源化】

工場から出る蒸留副産物や原料粕、汚泥、動植物性残渣、ガラスや金属くずなどの副産物、廃棄物の有効活用に努め、再資源化率 98%を達成している(2012 年度実績)。

【環境教育】

2004 年に NPO 法人日本環境倶楽部と共同で子供向けの環境教育教材、飲み物容器のリサイクルを紹介した絵本「TaKaRa リサイクルロード」を作成し、全国の小中学校の希望者や同社が出展する環境イベント等にて無償で配布している。隔年でデータを更新し、現在は第 6 版。発行部数は延べ 26,000 部で累計配布部数は 21,000 部となっている。

2012 年より、ごみ問題や容器の４Ｒについて、リサイクル体験など親子で楽しく学ぶ、宝酒造「エコの学校」を開催している。

2014 年度は京都市、神戸市で計 4 回の開催を予定。京都開催では、京都市が後援、京エコロジーセンターの協力で開催している。

また、神戸開催は、神戸市との共催となる。今後、開催都市や開催回数を増やしてくる計画である。

■日本で初めてとなるステイオンタブ採用

1989 年に日本で初めて、スポーツドリンク「PADI」に缶からタブ（引き金）が外れないステイオンタブを採用した。それまでの飲み口から外れるプルタブで問題となっていたポイ捨てによるタブの散乱や動物のタブ飲み込み被害の防止に役立った。

■焼酎のはかり売り

量り売り用の専用タンクはステンレス製で何度も繰り返し使用することが可能である。空になった専用タンクは工場に戻され、洗浄した上で焼酎を再充填し、再び販売店に送られる。

量り売りを実施している販売店は全国で 159 店舗（平成 26 年 9 月現在）あり、同社ではさらに増やすための活動を継続している。

内閣総理大臣賞（１件）

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

トヨタ自動車株式会社

豊田通商株式会社

所在地

愛知県豊田市、愛知県名古屋市

受賞テーマ

使用済車を中心としたクルマの中長期３Ｒ活動

１．世界に先駆け取組みを開始

トヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ）及び 豊田通商株式会社(以下、豊田通商)は、モータリゼーション草創期の昭和４０年代後半より、日本国でのクルマの普及が将来は使用済車（廃棄物）の大量発生に繋がることを見据え、その確実な適正処理の「社会システムのモデル構築」と、資源の少ない日本国においてクルマを貴重な資源ととらえた「持続可能なリサイクル等の事業」を先駆的な技術開発とともに推進、日本国におけるクルマの３Ｒが健全な「社会システム」として確立されるよういち早く取組みを開始し、約４０年の長きにわたり各種取組みを推進してきた。

豊田メタル㈱（愛知県半田市）

（取組み例）

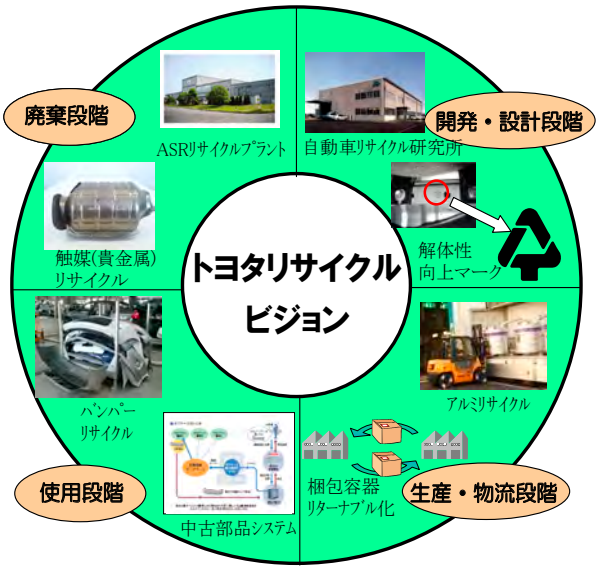
① 昭和４５年　クルマのシュレッダー会社「豊田メタル㈱」設立（世界初）

② 昭和４８年　トヨタ生産工場の潤滑油等の処理・再生会社「豊田ケミカルエンジニアリング㈱」設立

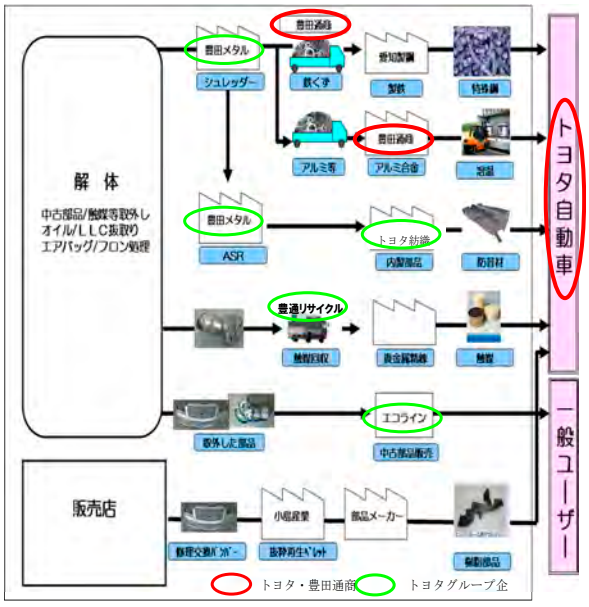
③ 昭和６０年　クルマの触媒（貴金属）回収会社「豊通リサイクル㈱」設立

２．バリューチェーン構築による社会システムのモデルへ

平成１５年に長期目標「トヨタリサイクルビジョン」を策定、クルマの開発～廃棄段階までの「ライフサイクル」を通した各種取組みを精力的に推進。リサイクルの「バリューチェーン構築」による、「ビジネスベース」での社会システムのモデルとして、シュレッダーダストリサイクル等 世界初の取組みや技術開発の推進など、３Ｒ推進に貢献してきた。



クルマのライフサイクルを通した各種取組み



トヨタグループのリサイクルバリューチェーン

３．レアメタル等の３Ｒ活動への進化、そして日本から世界へ

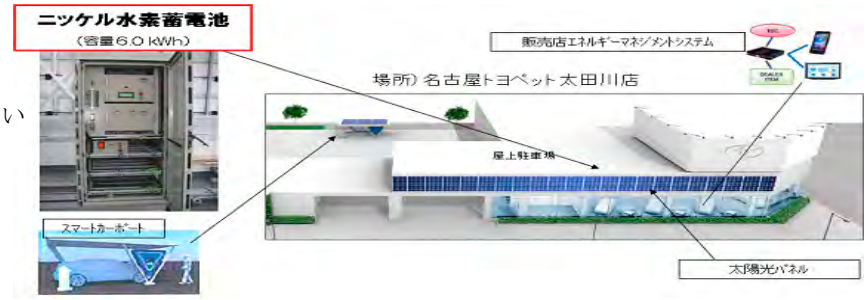
さらに、直近ではレアメタル*1 等の資源を多用したハイブリッド車など 次世代車両の急速な普及が将来の大量廃棄に繋がることを再び見据え、「レアアース*2 のリデュース」を目指した取組みを始め、ハイブリッド車用バッテリーの「レアメタルリサイクル」や、エネルギー問題へも貢献可能な「リユースの取組み」等の事業化も開始。日本国の「資源確保戦略」への貢献とともに、次世代車両の３Ｒの総合的な取組みにビジネスベースでいち早く着手し、先駆的な社会システムのモデルとして実績を上げつつある。

そして、これら３Ｒの取組みは、次世代車両の全世界への普及に合わせ、さらに「日本から世界へ」展開、「地球環境に寄り添う意識を持ち続ける（トヨタグローバルビジョン）」取組みを今後 一層加速させていく所存である。

ハイブリッド車用バッテリーのレアメタルリサイクル（世界初）

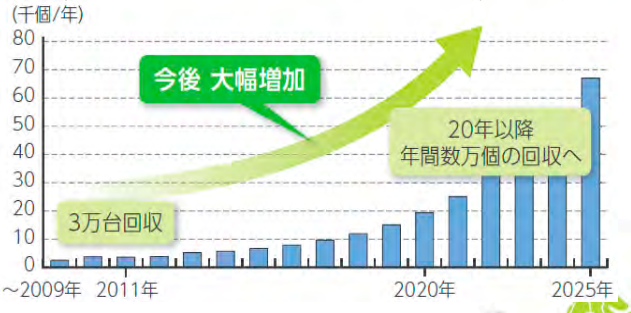
*1：希少金属。埋蔵量が少なく特定地域に偏在する。

*2：希土類元素。埋蔵量の少ないレアメタルの一種。



ハイブリッド車用バッテリーのリユース品等による定置用蓄電システム（世界初）

国内ハイブリッド車用バッテリー発生数量予測



ハイブリッド車用バッテリー回収システム構築国

内閣総理大臣賞 (2件)

内閣総理大臣賞
「個人・グループ・学校」分野

受賞者名

特定非営利活動法人ごみじゃぱん

所在地

兵庫県神戸市

受賞テーマ

無理なく容器包装廃棄物の発生抑制を実現する「減装（へらそう）ショッピング」

同 NPO 法人は、2007 年から、神戸大学の学生が主体となり、事業者・行政・大学・地域団体の協力・支援を得て、減装（へらそう）ショッピング事業（以下、本事業）を展開している。

ごみじゃぱん代表理事が座長を務めた委員会で、生活者は普段の買い物で包装ごみを意識しないが、簡易な包装の社会的なメリットを説明されると、包装の簡易な商品を選ぶとの調査結果が得られた。これを実証し、社会へ定着させることを目的として、本事業を展開している。

事業内容は、商品を生活者目線で分類、中身当り包装重量が軽い商品を減装商品として商品棚にカード等で表示し、推奨する。その後、意識（アンケート）、実際の行動（販売データ）を分析し、約 1 割程度の販売促進効果を実証した。このような事業は世界的に見ても殆どない。

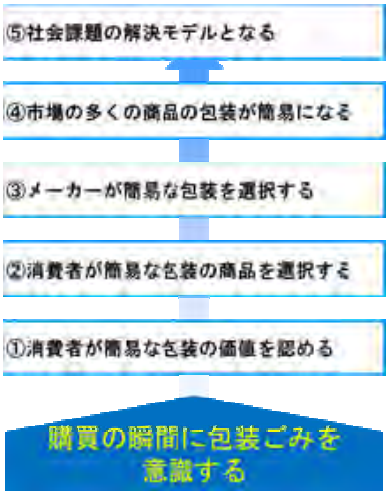
2007 年に 1 店舗（コープこうべ）で 1 ヵ月間の活動を開始し、2009 年～2010 年にはダイエー社、イオン社の協力も得て、3 店舗で 12 ヵ月間実施した。

2011 年には、ダイエー社が神戸市内直営全店舗（22 店舗、無期限）で活動を開始し、本事業は実験段階を脱し、神戸市内での定着という段階となった。

また、同じく 2011 年に、山崎製パン社と協力し基準を満たす製品へのマーク印刷実験事業を開始。7 商品を半年で累計 740 万個全国販売した。商品へマークを印刷するという実績を作った他、草の根ブログで好意的に取り上げられる等、全国での認知拡大も始まっている。

2012 年にはユニー社、ドラッグユタカ社の協力により大垣市で実験開始、全国展開を目指し規模拡大中である。

（包装へマークを印刷したパン商品）



具体的な実施内容は、次のようなものである。まず消費者にどの商品が容器包装の量が少ないかを提示するために、スーパーマーケットで販売されている商品を購入し、中身を取出し、容器包装の重量を計測して、商品ごとのデータを作成する。

次に、得られたデータを元に、その商品カテゴリー（カテゴリーは、ごみじゃぱんの任意）の中身あたりの容器包装量ランキングを作成し、上位 30%程度をごみじゃぱんの「推奨商品」とし、写真３のように POP で目印を付け、推奨する。さらにポスターやイベント等の啓発活動を行うことで、認知や理解度を深めている。

消費者が実際に商品を買う場において、適切な情報提示とその認知が必要であるとの考えから、現場重視型の活動を行っている。

また、新聞やテレビなどのマスメディアへの広報活動に努め、より多くの人にマークの認知と内容の理解を広めていくことで、マークの掲示されている商品の購入経験のある人を増加させていく活動を行っている。

(写真１：容器包装の中身出しと拭き)

（写真２：電子天秤で計測しデータ化）

（写真３：推奨した商品に POP）

（写真４：ポスターで説明掲示）

（写真５：岐阜県大垣市アピタ大垣店）

（写真６：神戸市東灘区ダイエー甲南店）

2011 年、同 NPO 法人と神戸市は「簡易包装の商品の推奨に関する協定」を結んだ。神戸市も環境に配慮した小売店舗を認定する基準として、本事業への参加を認定条件の一つとして採用するなど、この活動に協力している。

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

西北プライウッド株式会社

株式会社イトーキ

所在地

宮城県石巻市、宮城県仙台市

受賞テーマ

Econifa +RE（エコニファ　アールイー）～みどりの復興支援プロジェクト～
※東日本大震災の被災木を合板へ甦らせ、テーブル等の商品化を図りました。

同社は、東日本大震災の津波被害を受けた樹木をテーブル、スツールなどの家具に加工し、復興合板を使用した「復興合板家具」として販売している。

東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸部で津波をかぶった防風林や防潮林等の海岸林が発生した。これら津波被害を受けた樹木は、仙台湾周辺だけでおよそ 1,750ha あり、いずれは立ち枯れ、倒木の危険があるため、伐採が進んでいる。被災木を再利用せずにガレキにすると処理量の増加につながるため、これらを活用する方法が早急に必要となった。

そこで、合板製造企業である西北プライウッドと家具製造企業であるイトーキが連携し、西北プライウッドで被災木を原材料として調達し、合板に加工した後、イトーキでテーブル、スツールなどの家具に加工し、「復興合板家具」として販売する活動を 2011 年 10 月から行っている。

自身も被災した西北プライウッドは、2001 年にグループ会社のセイホク環境テクノセンターを設立し、「地球環境の保護」と「住環境の充実」を目指して資源循環システムを確立している。

同社は「木の３００％活用～１本の価値を最大化～」を実施しており、この精神のもと、東日本大震災で被災した海岸林についてもリサイクルに挑戦。試作を重ね、強度、品質面で JAS 規格と放射能試験の数値をクリアした。

復興合板家具には被災マツやスギを活用した合板を表す焼印を押してあり、家具としてオフィスや各種イベントの飲食ブース等で利用されることで、被災木利用への意識啓発につなげている。

2011 年 11 月から「東日本大震災復興支援日比谷ライブ＆マルシェ 2011」、「エコプロダクト 2011」、「みなと森と水の会議 2012」などで使用した。さらに、家具として長く使うことにより二酸化炭素の固定化による地球温暖化防止にも貢献している。

エコプロダクツ 2011 飲食ブース

港区森と水会議 2012 ポスター展示

■復興合板ができるまでの工程

家具の素材である復興合板は、宮城県沿岸などで材料入手、生産されている。

①伐採現場（大量の被災松が発生）

②被災木を分別管理されている。

③被災木をスライス（切削）

④単板を積層加工し、合板に仕立てる

復興合板家具（写真は、テーブルの天板、スツールの座板に被災木を利用）

復興合板家具を示す焼印部分の拡大

製品については、原木時、加工時の放射能測定を実施し、安全性を確認している。

原木入荷時の放射能測定

加工後の放射能測定

限りある地球の資源を大切に！

◆リデュース・リユース・リサイクル推進協議会は

消費者・教育機関・産業界・行政など多くの主体が連携しつつ日本全国で3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）を推し進めてゆくことを目的とし、国民的運動を展開することを使命としています。本協議会は、リサイクル推進協議会として発足いたしましたが、3R推進の重要性を認識し、より一層循環型社会形成に資するために現在の協議会に進化させました。

日本は循環型社会構築という面では世界を一歩リードするところまで来ていますが、それでも十分とは言えず、まだまだやるべきことが多く残されています。今後日本で更に優れた資源循環を推し進めてゆくために、本協議会は、3Rの普及・啓発などの活動を積極的に行ってまいります。

協議会のホームページ：　http://www.3r-suishinkyogikai.jp/